合唱団ホームページアドレス http://www.wiengifu.org

# 音楽とは 横への感性なり！

1
月号
2018年1月1日
編集・発行/
ウィーン岐阜合唱団

岐阜の街　ウィーンの如く　音楽し（おとたの）　作：音楽総監督　平光　保

## 明けまして おめでとうございます

音楽総監督　平光　保

**年末の“第九”いかがでしたか？**

第４楽章のみの演奏でしたが、引き締まった素敵な演奏でした。

ベートーヴェンは、シラーの人類愛に満ちた詩に感動し、長年温めた末に、交響曲の中に初めて、合唱を取り入れるという当時、斬新的な手法で書かれました。

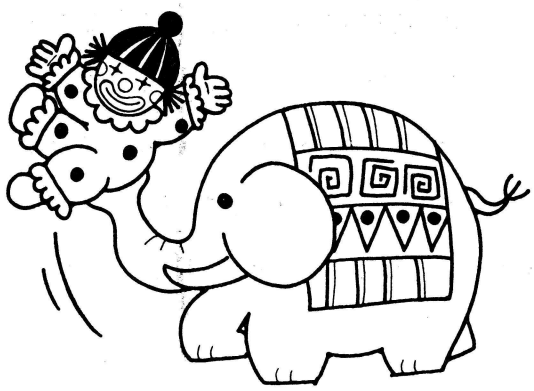
最初のバリトンのソロの部分は、ベートーヴェン自身の詩によるものです。「おお友よ、このような音楽ではない、もっと喜びに満ちたここちよい音楽を奏でよう」

音楽とは、リズム、メロディー、ハーモニーの３要素から成り立ちます。そこに、きっと私達の合唱団のテーマでもある“心のハーモニー”の大切さを伝えたかったのだと思います。

日本は、とかく技術偏重の傾向があると言われています。技術の高い人は、皆を引っ張り、低い人は、周りに迷惑をかけない様に皆で力を合わせ、どなたでも楽しく、音の“楽園”を築いていきたいと思っております。

この精神は、人道の精神、平和の精神にも繋がることでしょう。今年は、カウナス（リトアニア）の地で、世界人類の平和に向けての“第九”，夏の定演では、命の大切さを訴える“ぞうれっしゃがやってきた”を演奏します。

皆様と共に“平和”を考える良い機会にしたいと思います。



**明けましておめでとうございます。**

皆様にとって本年が明るく、健康で素敵な良い年でありますようお祈りいたします。
皆様のご協力により。素晴らしい団誌作りに頑張ってまいりたいと存じます。
よろしくお願いいたします。

編集部　一同

# 団員の皆さま　明けましておめでとうございます.

ウィーン岐阜合唱団 団長　森島 成享

クリスマスイブの第九演奏会にふさわしい曲目の連続で、第九の 4 楽章が終わった後、会場のお客様とご一緒に「赤鼻のトナカイ」を歌い最後に、こども歳時記より「クリスマス」を合唱しました。

直後会場から湧き上がった拍手、喝采、ブラボーの連続に、壇上の私達も感動に包まれました。今年は開場前のお客様の集合がとても早く、例年の倍以上のお客様が待合場に満ち溢れ　中に入り切れない人が外まで並んでおられびっくりしました。これもチケットの販売に対する団員の皆さまの必死の頑張りのお陰であり、有料入場者950名、招待者80名と併せて1030名の入場者となり、とてもうれしく感激しました。また朝早くからの団員、スタッフの皆さんのご努力、ご協力のお蔭で素晴らしい演奏会となり本当に有難うございました。

また東北大震災への義援金も￥75，397となり早速福島の「蓮笑庵」に送らせていただきました。

昨年を振り返ってみますと、

●3 月末にウィーン岐阜合唱団が平成 28 年度岐阜県芸術文化顕彰を受賞

●春の合宿(5月 27 日～28 日コージュ高鷲)

●夏の定期演奏会
(7月 30 日岐阜市民会館―フォーレのレクイエム)

●平光先生の古希コンサート
(8月20日ときめきホール)

●リトアニア合唱団との演奏会と交流会
(ぎふ清流文化プラザ、ホテルグランベール)

●紅葉ツアー(10月15日～16日高山)

●一万人の第九(12月2日～3日大阪城ホール)

●第九演奏会(12月 24 日長良川国際会議場)

等々、目白押しの忙しいそして素敵な一年でありました。これらの行事も今年への新たな行事のワンステップであり、**杉原千畝ゆかりのオペラ「人道の桜」の公演(1月 27 日～28 日ぎふ清流文化プラザ)、第 9 回ヨーロッパ音楽友好の旅(5月 23 日～6月2日)**リトアニアのカウナスで平和と歓喜の「第九」を合唱することとなっており、また**紅葉ツアー(10月末)は来年 12 月に高山での300人を超える「美濃飛騨第九演奏会」**に繋がろうとしております。**ウィーン岐阜合唱団創立20周年記念の音楽パーティー(2月 25 日岐阜グランドホテル)、春の合宿(4月21日～22日コージュ高鷲)、夏の定期演奏会(7 月29日岐阜市民会館「ぞうれっしゃがやってきた」)**と目白押しです。

非常に忙しい日程となっておりますが、どうか皆様ご健康には十分ご注意いただき、仲間とともに色々な行事にご参加いただき、合唱をやっていてよかった、素晴らしい仲間と出会え、気持ちの高まる1年を過ごすことができてよかったと思っていただけるよう一緒に頑張りましょう。

また、休団員の方、友人、お隣の方等にお声をかけていただき、1 人でも多くの方と、あの壇上での素晴らしい高揚感を味わいましょう！！

# あけまして おめでとうございます

ウイーン岐阜合唱団 副団長 臼井 博育

**2018年もウイーン岐阜合唱団並びに団員の皆様にとって良き年になりますよう、祈念いたします。**

私は、7年前に第九に憧れてウイーン岐阜合唱団に入団しました。５０年ぶりの合唱団は、男声合唱ではなく初めての混声合唱です。「女性の声とハモルんかいな」と訳の分からない事を思いながら取り組んできましたが、今や女声の２声に魅了されています。

特に、ソプラノの高い空間を優雅に漂いながら天使の如く包み込むソフトな美声。

アルトは、難しい中間音をクリアーし、全員が揃った時の迫力ある一体感の響き。どれも男声にはない魅力で私が合唱活動をする上で大きな力になっています。

私は、大垣支部に所属していますが、岐阜の練習にも参加させて頂いています。私がこの合唱団に入って驚いたことの一つは、その指導陣の熱意と、レベルの高さです。

何と言ってもオケのマエストロが合唱団の指導をされていることです。他の何箇所かで第九を歌いましたが、オケのマエストロが直々に指導する、しかも毎週岐阜と大垣で。

これは他ではあまり例がないのではと思います。また、その指導が微に入り細に入りで、団員の音楽性も高まるはずです。

マエストロの脇を固める指導陣も素晴らしく、どうしたら美しく響く声を出せるかのボイストレーニングはきめ細かく、常時やって頂けます。

このような合唱環境の中、岐阜と大垣の大きな違いは、人口に比例すべく大垣は、30 人弱で毎週練習しています。

人数が少ない分先生方の指導も、実に丁寧で細かく要求度が高い！平光先生の、「もっと細かく言うと」が何回でてくるやら‥

物理的にも、団員と先生方との距離も２m弱でまさに目と鼻の先でやっています。おのずと合唱団員一人一人の声が先生に丸聞こえで、緊張感が高まり気を抜けません。

昨年、大垣の 12 月８日の第九練習で平光先生が口パク（無音）練習をされました。これは、正道ではありませんが非常に効果的な練習だと思いました。

12 月１日の第九練習でも真由子先生がバリトンに対して口パク（無音）に通じることを強調、要求されました。

両先生が美しいハーモニーを創るということで口パク（無音）について強調されたことをバリトンに所属するものとして反省をしています。

先生方の話を要約しますと、バリトンが、高い音を歌う時、無理をして声を張り上げない。顎を上げて、無理をして喉声で歌うと大変聞きづらく、また音程が半音、１音等低くなってしまい不協和音になります。これは、低い音域で歌う時も全く同じで出ないのに無理をして出さない。それには、まず自分の声の音域を知る事が必要です。

役割分担を自覚し、とくに第九などでテナーとユニゾンの部分では、高い所はテナーにお任せし、自分が得意の音域で力を発揮することが大切とのご指導を受けました。

私たちはお客様に美しいハーモニーをお届けすることが使命であり目標です。理にかなった良い声を出す一つの方法として、先生方に自分の声、音域を聴いてもらって、自分の音域を自覚し、発声法を指導していただくことも大切な事だと思います。

先生方のご指導は、たまたまバリトンでしたが全パートに共通した指摘であることは言うまでもありません。

私たち大垣支部は、先程述べたように、少人数故の練習を重ねて来ています。

現在、岐阜のテナーのお二人が常時来ていただきなんとか合唱団の体をなしています。最近テナーの皆さんの声が良く響き、存在感を増しているように感じます。

是非とも岐阜本部の皆さんも大垣支部の練習に参加して頂き、このぞくぞくするような緊張感の中で練習をされることをおすすめします。

きっと病みつきになり上達されること請け合います。

# ウィーン岐阜合唱団
# 第19回“第九”演奏会に登壇して

日本リトアニア友好協会　坂水　昶之

私の心は、今でもホカホカしています。

それは天に恵まれた機会とも言えるような偶然のきっかけから、伝統ある「ウィーン岐阜合唱団第九演奏会」に参加させていただいたことによるのです。

これに先立って、９月にはリトアニア各地の文化センターの音楽の先生方で構成された合唱団を岐阜にお連れすることができました。なんという幸運でしょうか！

その最初の結び付きは杉原千畝オペラでした。出演者のお一人がウィーン岐阜合唱団の団員さんだったのです！ですから、これこそ‘千畝さん’がくださったご縁なのです。

私は小さい時、少年少女合唱隊で合唱を始めた時から今日まで、合唱音楽から一度も離れたことがない合唱人間です。教育ママの母の方針で５歳からピアノを習い、色々な楽器にも触れてまいりましたが、やっぱりみんなと歌っている時が一番楽しいです。

私は理科系で航空工学という数学のお化けのような学問を学び、日産自動車で、ビジネスマンとしての一生を終えた、生粋のエンジニアですから、音楽は全くの趣味ということになります。でも、この趣味を持つことができたのは、私の人生で最も幸せなこととおもいます。

ウィーン岐阜合唱団の皆さん！

それは、毎日美味しいものを食べている人には“美味しい”ということがわからなくなる、というようなことに似ていると思います。

皆さんは、稀に見る、恵まれた音楽環境にありますし、その中で本当の音楽の素敵さや、楽しみを‘当たり前のように’楽しんで、ご自分の人生を豊かにしておられます。外からの訪問者である私には目を見張るような新鮮な体験でした。

今回の演奏会は音楽のお出迎えから始まりました。

会場に入ったとたん素晴らしい音で「いらっしゃいませ」とお客様をお迎えする演奏会が他にありますか？

それはヨーロッパ、それもウィーンの上級社会で貴族たちが行ってきたと言われている素晴らしいお客様のお迎えの仕方なのです。

そして第一ステージ、プロのオーケストラとプロの歌手による最高級の音の楽しみ。休憩を挟んで第二ステージは、アマチュアの、情熱の発露する合唱。この演奏会構成ほどお客に音楽の素晴らしさをまんべんなく聞いていただき、ひと時の感動を提供するように設計された演奏会はありません。

合唱団の演奏会が合唱に終始し、それが当たり前になっている日本ではとても珍しい、贅沢な音楽会ですね。

その次の皆さんのこよなき贅沢というのは、ほかならぬ平光先生の存在です。

先生の指揮は天下一品です。ウィーン岐阜合唱団しか知らない皆さんには‘わからない’ことですけれども、先生の指揮には、音楽への愛と、その愛を皆さんに伝えようとされるやさしさと、それを皆さんに過不足なく伝えようとされる技の年輪があります。

全く、意味のない無駄な動き、がありません。指揮棒では表現できないデリケートな音楽を全身で、見事に伝達されています。特に両手の表現力は舌を巻くお上手さなんです。

私も大学時代から指揮や編曲にもう６０年近く取り組んできた人間ですがマエストロには全く歯が立ちません。創立６５年の伝統を持

つ男声合唱団を指揮し、さらに多くのリトアニアの合唱団の終身名誉指揮を仰せつかっている私にはこのことが「一瞬」でわかりました。あの難しい第九を、こんなに優しく振れる指揮者を見たことがありませんし、なんたって、とても歌い易かったです。来年5月の、リトアニアの国立オーケストラのプロ達の反応が楽しみです。

皆さんには、ピアノ伴奏に素晴らしい菅原先生がついておられるだけでなく、オケや弦楽四重奏などを伴奏に使っておられますね！！

ウィーン岐阜管弦楽団という親戚がそばにおられることを当然のことのように思っておられるかもしれませんが、これがまた贅沢中の贅沢なんです！！

昔のヨーロッパでは何かひとつの楽器ができることが教養人の常識でしたし、歌も、踊りも、伴奏も近所の仲間が集まって、事あるごとに生活の一部として音楽を楽しみ伝えていたのです。皆さんにはその環境に近いものが、現実に身近にあることになります。日本でこんな贅沢なことをやれているのはソニーや東芝ぐらいのお金持ちの企業団体ぐらいなものでしょう。それほど贅沢で、お金のかかることなんですよ。

私に音楽の話をさせたらキリがありませんからこの辺にしておきますが、幸せな皆さんとは、これからも仲良く音楽のお付き合いを始め、いろいろな場面で触れ合わせていただきたいものです。よろしくお願いいたします。

そのとっかかりとして、皆様の来年5月のリトアニアご訪問に当たりましては、日本とリトアニアの友好協会の人間として、出来るだけのお手伝いをさせていただきます。もちろん全てボランティアです。

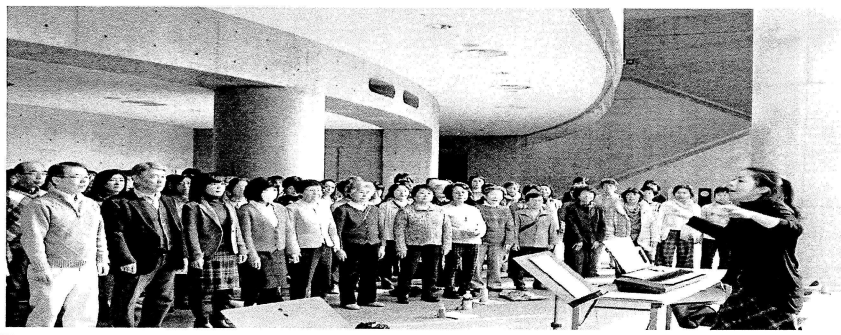
今回ご一緒させていただいた事への、ほんの心ばかりのお礼とお考え下さい。

スケジュールを拝見致しますと、音楽に贅沢なウィーン岐阜合唱団の皆さんの、これまた超贅沢な音楽の旅ですが、お金を借りてでも参加される意味は十分にあります。

音楽というのは人間の最も根源的な、しかも最も洗練された文化です。その素晴らしさを満喫される旅となりますよう、最大限の知恵を絞りますのでどうぞご期待下さい。

見田村さんを初め多くのスタッスの皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。

（平成29年12月25日　新幹線の中で）



## 皆勤者の皆さん（h29.8～12月）

● 岐阜本部

**ソプラノ**
中村　愛子

**アルト**
岩森　由利
加藤喜久子
清水みち子
田中　弘子
田中智恵美
棚橋　清江
中島　尋江
長縄　郁代
藤田眞智子
右田真理子

**テナー**
杉江　功
見田村勝信
森田　進

**バリトン**
澤田　登
森島成享
和田錠治

●大垣支部

**ソプラノ**
河田尚美
山口水篤

**アルト**
臼井玲子
小林真紀子

**バリトン**
臼井博育

# ブラボー！［日本初演から100年の遭遇］
# 0年生の“第九”

岐阜本部 アルト 藤田 眞智子

団員の皆さん！ご存知でしたか？（知らぬは私ばかりと思いつつも・・・）

昨年12月6日の新聞記事によると・・・

【日本での「第九初演」は1918年6月1日、徳島県大麻町坂東に於いて「ドイツ人捕虜」による演奏であり、今年で100年を迎える】 昨年の半年間、第九 only の毎日を過ごしていた私は、この記事を目にして一人感無量に浸っていました。

長い人生の中で親兄弟の中一人「喜寿」を迎えた私は、懸命に生きてきた証というか何か自分の記念になることに取り組みたいと秘かに考えていました。

あれこれ興味のある事に手を出し実行もしていました。

そんな時、はからずも「第九」との出会いがあり、「ウイーン岐阜合唱団」に入団して半年、何かと苦労の連日連夜の日々を過ごしていました。

先ず「第九　0年生は誰？手を挙げて」「え？0年生？」「ドイツ語？」「RとLの違い？」「ドイツ人の顔のつもりで声を出す？」「歌詞って早口言葉？」？？だらけの、そう！0年生の私。

この歳にして始めた私には歌詞が頭に入ってはくれません。いつも霧の中にいてすっきりしない日々。

そんな日常の中ふと目にした記事でした。要約は次のような内容でした。

【1914年の第一次世界大戦で、日本はドイツ軍を降伏させ約4700人の捕虜のうち約1000人が徳島県坂東俘虜収容所にきた。彼らは東アジアに居た志願兵で全員男性、職業は様々の人たち、窮屈な収容所暮らしに苦情はほとんどなし。

当時の松江所長が寛容に処遇し、捕虜を人道的に扱い人権と自主性を尊重した結果であり、そのような環境の中「第九」の演奏が実現した。

捕虜の中に音楽家が居て所内にはオーケストラが2つ、その中の1つが演奏した。

古いヴァイオリンやオルガンを調達し合唱の練習にも熱心に取り組んだという。

彼らは外出も許されて町を歩く時は『やあ！トモタチ（友達）』と気さくに笑いかけ、住人は彼らをドイツさんとよんで仲良くなった。

ドイツさん達は町に橋を作り庭にコスモスを植え、3年後に帰国して以降現在も尚姉妹都市を結んで交流が続いている。徳島県へはドイツ人観光客も多く、2006年には「バルトの楽園」という収容所のドラマが描かれた映画が公開されヒットした。

今年5月末には功績者の松江所長の銅像が建てられ「第九100年」に合わせて、世界平和のメッセージ発信となるだろう】

この記事を読んで今まさに取り組んでいる「リトアニア」との事を思い起こし、音楽がつなぐ世界との交流の真っただ中に居る自分（チョッと大げさ？？）に自己満足しました。

そして、伴先生の個人レッスン最終日大きな合格の花丸❀を頂き、無事に「喜寿」を卒業した記念に「聴く側」から「歌う側」になり、「登壇」という厳かな儀式も体験しました

また100年の節目に遭遇した幸運に感謝しつつ、暗譜はまだ70点（甘いかな？）の実力ではありますが、要領よく「クチパク・作詞？・遅出・早じまい」を取り入れて『第九 トモタチの歓喜（新聞記事タイトル）』に厚かましくも0年生初挑戦を果たしたのでありました。

1年の締めくくりの曲として全国各地で演奏され歌われる「第九」。ウィーン岐阜管弦楽団＆合唱団に【BRAVOー！！】そして自分にも小さく【Bravo—！】

平成29年12月24日　長良川国際会議場にて

# 朝ドラ「ひよっこ」とウィーン岐阜合唱団

岐阜本部　アルト　坪内　千春

「今日の朝ドラは、乙女寮のコーラスのシーンがあるかな。」今年の春は何度そう思って車のワンセグ放送に耳を傾けたことでしょう。通勤途中の車の中、私の楽しみはNHKの朝ドラでした。(9月で退職したので、今は車中のお愉しみではなくなりました。)オープニングのテーマ曲を大きな声で、誰にも気兼ねしないで歌い、走行中は音声だけで画面を想像します。渋滞している時のみ画面を見ます。仕事に向かう気分を盛り上げるには、朝ドラのオープニング曲を歌うのが一番。お昼休みには再度見て音声だけでは分からなかった所を確認し、ドラマによっては帰宅後録画をもう一度見ます。私は何を隠う朝ドラのヘビーウォッチャーなのです。

今年の4月から9月まで放送された「ひよっこ」では、主人公が勤務先の会社の独身寮のコーラス部に入り、仲間と共にコーラスを通じて友情を育むという場面がありました。アコーディオンの伴奏にのせて「トロイカ」「恋はやさしい野辺の花よ」「椰子の実」など、すっかり忘れかけていた歌が流れ、そのハーモニーの美しいこと。仕事に追われて疲れていた私はいつの間にかドラマのストーリー以上にコーラスが待ち遠しくなっていたのです。学生の頃に幾つかの楽器に触れましたが、人前で歌うことは苦手でしたので、合唱団に入ろうと思ったことはありませんでした。しかし、こんなに楽しそうなことを今こそやらなくてはと思い、友人であるソプラノの河田さんのいるウィーン岐阜合唱団に入団する事を決めたのです。

コンサートには何度も足を運んでいたので、8月の第1回の練習日に平光先生や和子先生、真由子先生のお顔を近くで拝見した時は「初めまして」という感じではなくて「お久しぶりです！」という感じでした。団員の皆さんの若々しくとても明るい笑顔と男声の良く響く低音に驚きました。

久しぶりに手にした楽譜にドキドキしながらも、大きな声を出して大勢の人達と歌うことの気持ちよさに感激したのです。

この3カ月間「人道の桜」、「緑濃き森林の大地よ」(kurgiria)、そして「第九」など次々と新しい歌を覚えるのに夢中になりました。また、リトアニア合唱団とのコンサートでは、観客席からその素晴らしいステージを楽しみました。

久しぶりに新しい人達の輪に入り、歌える場所を見つけて単純に喜んでいたのですが、歌い方の指導を受けるたび、歌うことの奥の深さや、難しさを感じるようになりました。今は年末の“第九”コンサートに向けてどこまで頑張れるか正直不安です。「歌詞は全部暗譜できるかしら」また、「間違った所で声を出さないかしら」と……。先輩からは「1年目は皆そうよ」との言葉に少々ホットはしましたが、どうなることでしょう。乙女寮の“みねこ達”のように笑顔で当日歌えるよう、団員の皆さんの歌声をお手本に頑張っていきたいと思います。(h 29.11月作成)

## 一回一回が仕初めで、仕納め

**毎回新しい気持ちで取り組み、これが最後だと心して一日一日を丁寧に生きよ**

江戸時代、堺の町に吉兵衛という人がいました。商売も繁盛していたのですが、妻が寝たっきりの病人になってしまいました。使用人も多くいたのにもかかわらず、吉兵衛は、妻の下の世話を他人には任せず忙しい仕事の合間を縫って、やってやりました。周囲の人々が言いました。「よく飽きもせず、なさっていますね。お疲れでしょう」それに対して、吉兵衛は、こう答えました。「何をおっしゃいます。一回一回が仕初めで、仕納めでございます。」

私は、この言葉を時折思い出して、反省の材料にすることがあります。吉兵衛さんは、この繰り返しを、繰り返しとは考えず、毎回を「仕初め」として、新鮮な気持ちで行い、もしかすると、これが最後になるかもしれないと、心して、丁寧に済ませていたに違いません。こうゆう心を折に触れて取り戻したいものです。

随分前のことになりますが、一人の神父が初ミサを立てるにあたっていった言葉も、私に反省を促します。「自分はこれから何万回とミサを立てることになるだろうが、その一回一回を、最初で、最後のミサのつもりで立てたいと思う」皆さんも新しい年を迎えるとき、それぞれに立てる決心があることでしょう。私は、吉兵衛さんの「仕初めの仕納め」の心がけと、初ミサを立てたときの神父の「最初で最後」の丁寧さを大切にして生きたいと思っています。それは、とにかく機械的になりがちな日常を見直して生きるということであり、その日々の積み重ねが、この一年を私の財産となる一年にしていってくれるのではないかと思っています。

面倒だから、しよう「渡辺和子　著」

# 1～3月練習予定

練習時間は18：45～20：45です。（18：30には集合しましょう！！）

| 月　日 | 岐　阜 | 月　日 | 大　垣 |
|---|---|---|---|
| 1月11日（木） | 長森コミュニティーセンター | 1月12日（金） | 大垣市南地区センター |
| 1月18日（木） | 長森コミュニティーセンター | 1月19日（金） | 大垣市南地区センター |
| **1月25日(木)** | **岐阜・大垣合同練習** | **岩野田北公民館** | **18:45～20:45** |
| 2月　1日（木） | 長森コミュニティーセンター | 2月　2日（金） | 大垣市南地区センター |
| 2月　8日（木） | 長森コミュニティーセンター | 2月　9日（金） | 大垣市南地区センター |
| 2月15日（木） | 長森コミュニティーセンター | 2月16日（金） | 大垣市南地区センター |
| 2月22日（木） | 長森コミュニティーセンター | 2月23日（金） | 大垣市南地区センター |
| 3月　1日（木） | 長森コミュニティーセンター | 3月　2日（金） | 大垣市南地区センター |
| 3月　8日（木） | 長森コミュニティーセンター | 3月　9日（金） | 大垣市南地区センター |
| 3月15日（木） | 長森コミュニティーセンター | 3月16日（金） | 大垣市南地区センター |
| 3月22日（木） | 長森コミュニティーセンター | 3月23日（金） | 大垣市南地区センター |
| 3月29日（木） | 長森コミュニティーセンター | 3月30日（金） | 大垣市南地区センター |

## 夢のプロオーケストラとの協演に参加して

**岐阜本部 ソプラノ　水野　雅永**

ウィーン岐阜合唱団に入って、2年が経とうとしています。お友達に誘われてチケットをいただいて第九の演奏を聴いて心が躍らされました。二度と合唱では歌わないと思っていた私に、また機会を与えてくださいました。

私は、素敵だなと思ったチラシを集める癖があり、整理し始めたら、なんと、第2回たのしいコンチェルト出演者募集、CD発売、第7回第九演奏会などのチラシが出てきました。すべて、平光先生の名前があり、びっくりです。こんなにも前から出会っていたんだと、只々びっくりするばかりです。

小さい時から、海外の（ヨーロッパ）の景色を見ながら音楽を聴くことが好きでした。まさか、音痴と思っていた自分が歌うことになるとは、思いもよりませんでした。

歌が今よりうまく歌えたらいいなあと思い、練習をしてきたご褒美と思い、オーケストラをバックに歌うことを決めました。決めると、またドキドキし始め、先生方に相談して曲を決めました。たった一曲なのにその時の体調もあり、同じことを注意され、ショックを受けながら、一つ一つ丁寧に練習するしかないと思い、仕事の合間を見つけながら練習しました。

リハーサル。舞台に立つ。これがサラマンカ？　実感がなく、歌うと自分だけ一人しゃべりのように感じられ、寂しくなりました。そして、オケに合わず、伴先生には、やさしく「聞いたらダメ、歌いたいように歌えばいいのよ」と励ましていただきました。オケとあっていないこともわからず、淡々と歌っておりました。

本番。平光先生の気配を感じながら、後押しされるように歌いました。途中注意されたところに気づき、あーショック。捨てて,,捨てて、前に向かって歌わなくっちゃと、言い聞かせながら。

もう少し、もう、終わっちゃう。寂しさと安堵感。みんなに、「良かったよ。」と褒めて貰えてよかった。そして、合唱の仲間も一緒にできたことも、緊張をほぐしてもらえたのかな？と、思いました。何よりびっくりしたのは、団員の方々がお手伝いをしていらっしゃったことです。なんという団結力、温かい人たち、こんな合唱団は知りません。

大変うれしく感動しました。人との出会いがあり、ここにこうして私がいる。音楽を好きで続けていてよかったと思いました。ありがとうございました。